

められた広々とした敷地内にモダンなデザインのビルが建っている。中に入ってみると内装もかなり凝っており、白を基調としているためかなり清潔感のあふれるイメージだ。広い部屋に案内されお話を伺った後、二組に別れて社内見学を行った。社内はあまり人の気配がなく、代わりに目立ったのがコンピュータだ。とにかくどの部屋に行っても何台も置いてある。通路を歩いていると、向うから四角い箱のようなものに車のついた機械がゆっくりとやってきた。誰か人がそばにいて動かしているのかと思ったが、驚いたことにそのような人はいない。自分で通路の角を曲り、な

おゆっくりと進んでいくその機械を見ながら、ここでは機械やコンピュータが主役なのだ、と思った。もちろんそれらを動かしているのは人間なのだが、どう見ても人間は脇役である。

会社の見学が終わった後、バスで淵野辺駅へ戻り、そこで解散。初めての巡検がそこで終わった。一日でいろいろな事を教えていただきました実際に見て歩いて、かなり疲れたが、心地よい疲労である。今後は、事前学習が十分でなかったなどの今回の反省点をふまえ、これからの巡検をさらに実りあるものにしていきたい。

(7月13日 内藤教官指導)

千葉巡検

鈴木 美千代

私達1年生にとって3回目の巡検となった千葉巡検は、すばらしい秋晴れの天候のもと、10月14日に行われた。総武本線で千葉まで行き、そこで11時30分に菅田に集合という予定であったから、早起きするのが少々つらかった。

菅田駅から瀬又新田まで、私達は地図を片手に浅海先生の後をついて歩いていった。瀬又新田では、褐色火山灰層、すなわち私達のよく知っているローム層や、その他、灰色粘土層、砂層などが露頭となっており、地層が重なり合っている様子がよく見てとれた。

それから村田川低地の水はけの悪い水田を見学した後、私達はさらに瀬又堰に向かって歩き続けたのだが、到着するまでが本当に大変だった。何しろ道になっていない山を一生懸命はい上がって行ったのだから。スカートをはいて来ていて登りにくそうな人や、ストッキングが破けてしまう人もいた。とにかく必死で、すべる坂道を周囲の草木につかまりながら登っていったのだ。健脚で名の知れた浅海先生は、四苦八苦している私達などおかまいなしといった様子でどんどん進んでしまおうし、たかが1日巡検とたかをくくっていた私などは、この時点でもう歩きたくない、帰りたいなどと思っていた。ところが、目的地へ着いてみて私は驚いた。中学生の時、理科の教科書の口絵になっていたような光景が今、目の前に広がってい

る。何と地層の中に貝の化石がたくさんあるのだ。私達が今登ってきたこんな高い山も、はるか大昔は海だった。海底でつくられたこの地層が、大地の隆起によって今は山となっている。私は自然の営みのすばらしさに、しばしの間感慨にふけていた。よく見ると足もとに貝の化石が、石ころのように転がっている。私達は、思わず「わあっ」と叫んでしまった。

再び菅田駅まで歩いて戻り、それから電車で千葉駅まで行くと、私達は、そこからバスに乗って、最終見学地である千葉県立中央博物館へ向かった。目的地に着くと、私達はつかれてお腹がぺこぺこだったので、とりあえず昼食をとった。それから、係の人の説明を聞きながら博物館の中を見学させていただいた。係の人は、房総半島の地形や生物などの自然について、歴史について、人間が自然とどんなふうにかかわってきたかなどについて、それは親切に説明してくださった。

今、千葉巡検を振り返ると、浅海先生のあの恐しくもすばらしい足の後について、本当によく歩いたなあと思う。そして、個人的に言わせてもらえば、あの山でみた、たくさんの貝の化石が、とても印象に残っており、今でも私の頭に焼きついて離れないのだ。

(10月14日 浅海教官指導)